

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

報告日	平成 27 年 12 月 2 日
主管学校名	宮城教育大学附属幼稚園
P T A 会長名	佐藤 直美

実施概要	主管校	宮城教育大学附属幼稚園
	交流校	宮城教育大学附属特別支援学校
	実施活動名	宮城教育大学附属特別支援学校訪問
	実施日時	平成 27 年 9 月 28 日 (月)
	実施場所	宮城教育大学附属特別支援学校
	実施目的	幼稚園保護者が特別支援学校を訪問し、交流を深めることにより特別支援教育に対する理解と知識を深め、その後の交流基盤をつくることを目的とする
	実施内容	特別支援学校訪問、生徒の授業風景の見学、副校長先生の講話
	実施方法	貸切バスにて特別支援学校に到着後校内見学をして、その後、体育館にて講話を聞く
参加人数	宮城教育大学附属幼稚園保護者 58 名	

報告事項	内容	平成 27 年 9 月 28 日 (月) 宮城教育大学附属幼稚園から特別支援学校まで貸切バスにて保護者 58 名が訪問しました。到着後、体育館で開会式が行われ、村松校長先生のお話をお聞きした後、保護者が 3 グループに分かれて、木工班 (卒園記念品のサンプルを見学)、総合サービス業班、陶芸班の施設見学を行い、更に生徒さんたちの授業風景を見学しました。総合サービス業班では、生徒さんたちによる手作りビーズ製品の販売が行われ、保護者と生徒さんたちとの交流を深めました。その後、体育館に戻り、千葉副校長先生による「気になる子どもの理解と対応」というテーマの講話を聴講しました。バスにて宮城教育大学附属幼稚園に戻り、保護者アンケートを実施しました。
	結果	参加者 58 名が 3 グループに分かれて、それぞれ木工班、陶芸班、総合サービス業班の作業風景を見学しました。大勢で伺ったにもかかわらず、生徒さんたちは歓迎してくださり、保護者からの質問にも快く答えてくださいました。 生徒さんたちの活動する姿を実際に見学することが出来、より良い理解につながったと思います。総合サービス業班の生徒さんたちによるビーズ製品と陶芸班による陶器、木工班による鍋敷きなどは宮城教育大学附属幼稚園のバザーでも販売させていただき、大変好評でした。今回は総合サービス業班の生徒さんたちのビーズ製品を実際に制作し販売している姿を見ることができたことで、より身近に感じ深い交流になったと思います。 また、千葉副校長先生の「気になる子どもの理解と対応」の講話を聴講し、気になる子どもの理解と対応方法を知ることが出来ました。
	所感	・貸切の観光バスタイプの車両で全ての移動が出来たことで、全員が着席可能になり、小さなお子さん連れのお母さんたちも安全に楽しむことが出来たと思います。 ・「気になる子どもの理解と対応」という講話を聞き、特別支援学校の子どもの日常に保護者が参加するという自然な交流を通して、障がいのある人を正しく理解する意識が高まり、「共に生きる」という視点をもつことの大切さを学びました。 ・限られた時間の中で、より良い交流のあり方については、特別支援学校の先生方のご意見を伺いながら両校の発展的な連携を目指して今後も活動していきたいと思っています。

添付書類	実施報告書掲載可
------	----------

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成 27 年 12 月 2 日
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校 宮城教育大学附属幼稚園
学年	氏名



千葉副校長先生の講話を聴く講



学校施設の説明を受ける



総合サービス業班によるビーズ制作品の販売



総合サービス業班によるビーズ制作の見学



総合サービス業班によるビーズ制作の販売



木工班の作業の説明を受ける

活動に参加しての感想

カンガルーシップ活動 共生プロジェクト参加感想

提出日	平成 27 年 11 月 27 日
学校名	宮城教育大学附属特別支援学校 宮城教育大学附属幼稚園
学年	氏名



木工班の作品『鍋敷き』



木工班の制作風景を見学



陶芸班の作品



陶芸班の作業風景の見学



陶芸班の作業風景を見学



陶芸班の作業の説明を受ける

活動に参加しての感想

カンガルーシップ活動

共生プロジェクト参加感想

提出日 平成27年12月2日

学校名 宮城教育大学附属幼稚園

- ・ビーズ販売の際は、直接生徒さんと交流することが出来て良かったです。生徒さんが「沢山売れた。」と喜んでいました。楽しい訪問になりました。バザーで、ストラップや陶芸品を購入しましたが、制作現場を見ると、より身近で大事に感じられるようになりました。
- ・生徒さんたちの作業する様子を見学出来て良かったです。一つの作品に時間を掛けて、丁寧に作っていたので素晴らしいと思いました。ビーズ販売もあり、購入することが出来たので良かったです。卒園記念品が楽しみになりました。就労支援を理解することが出来ました。生徒さんたちが、一人一人の長所を大切にし、社会で生きる力を身に付ける姿がとてたくましく見えました。
- ・学校の特色、あり方を改めて知ることが出来ました。より身近に特別支援学校の存在を感じられるようになりました。
- ・先生の子どもたちに対する声掛けが素晴らしく、そういった部分を見て、聞くことが出来て、見習う機会として良かったです。先生方の子どもたちへの強い愛情を感じることが出来ました。
- ・「せっかく附属幼稚園にいるのだから」という言葉を大切に、今後もこのような機会を大切にしたいと思います。
- ・昨年も参加させていただきましたが、子育て講座のようで大変ためになります。「障がい」という言葉で特化するのとは間違いで、子どもを育てる上で大切なことは万人に共通するのだと気付かされます。「障がい」ではなく「多様な個性」としてのとらえ方が自然に湧き起こりました。質問時間が取れなかったのが残念でした。「気になる子の周囲の気になる子」の部分で、どういう心理状態でそのような行動を起こすのか、親の価値観や育て方が影響しているのか、分かる範囲でお聞きしたかったです。
- ・校内を見学出来る機会等は、個人では出来ないことなので良いと思います。グループごとで見学しやすかったのですが、出来れば授業風景や教室内、中学部、子どもと歳の近い小学部の見学もしてみたいと思いました。
- ・「子供同士の交流」「親同士の交流」⇒一緒に交流する中で、身近に感じ「共に生きる」ことを感じて欲しいです。
- ・とても勉強になったので、特別支援学校訪問はずっと続いて欲しいです。生徒さんともっと交流が出来ると嬉しいです。幼稚園と特別支援学校との交流機会を増やして欲しいです。今回のように制作物を購入できる機会を希望します。
- ・親子で参加でき、一緒に活動できる場があると良いかと思いました。年長と特別支援の生徒さんとの交流活動の見学を、何年かに一度のペースでも行ってもよいのでは、と思います。特別支援学校の様子、状況だけでなく、障がい児とのかかわり方、子育ての仕方、全てが共通するように思い、とても勉強になりました。何事も前向きに取り組むことが大事なのだな、と思いました。
- ・障がいの有無に関わらず、家庭ですぐに取り組める講話を聞くことが出来ました。「自己評価の低い子どもたちが多いため、褒めて伸ばす。約束事を決めて、それを守り通すことが大事で、叱らない。」という点を取り組みたいと思いました。
- ・「叱るより約束を」という言葉が印象的でした。叱らないという事は時として難しいですが、叱るのも叱られるのも、お互い良い気分はしないので、この言葉を心に留め育児をしていきたいと思いました。
- ・子育ての話では、副校長先生の体験談を交えて話して下さったので、我が家の子育てと身近に感じる事ができ、とても勉強になりました。一人一人の個性を大切に、接し方、声掛けをしたいと思います。障がいに対する理解を深め、共生していける社会作りをする一員になるため、今後共精進したいと思います。
- ・「障がい理解は、人間理解」座右の銘として、深めようと思います。全ては個性で、一人一人を理解するという考え方に納得致しました。個性を尊重した教育に凄く期待しております。お話の内容が具体的で分かりやすかったです。先ず、積極的に知ろう、分かろうとすることが大事なのだと思いました。
- ・「子育ては自分育て」という言葉がとても心に残りました。自分自身、ADHDについての知識がまだまだ足りない、また、今までは誤解があったのだと思いました。
- ・「叱る」と「怒る」の違いについては考えることがあり、自分は叱っていると思っていましたが、「宿題をしないから叱る」は間違いでした。「やる気を起こさせる」という言葉掛けが大切だということを理解しました。
- ・説得力のあるお話で ADHD について、前回よりも詳しくお話していただきました。資料も、お話を伺った後で見ても理解しやすい内容でした。
- ・約束を守り切らせること、決定権を明確にする、というのはドキッとしました。つつい面倒だからと、子どもの言いなりになることも今までありましたので、親が一貫性を持って毅然とした対応をしたいと思いました。
- ・「ワンセンテンス・ワンミーニング」は分かっている、沢山のことを注意したくなる私には忘れてはいけない部分でした。「短い言葉で褒める」は息子に対して心掛けるようにします。
- ・気になる子どもとの関わり方について遠ざけていたような気がしますが、今後は子ども共々何らかの形で関わっていきたくと思いました。
- ・発つ障がいを「気になる子どもたち」と表現することは凄く良いと思いました。しつけのせいではなく、対応次第で大きく変わるという事に希望を持ちました。
- ・正しい知識があって、適切な教育を受けることが出来れば障がいはデメリットではないということが分かりました。